

# 経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

岡山県 岡山市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m <sup>3</sup> /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m <sup>3</sup> )
法適用	工業用水道事業	28,000	小規模	2	20,701
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m <sup>3</sup> /日)	管理者の情報	
-	90.9	14	25,150	自治体職員	

## グラフ凡例

- 当該団体の値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

## 分析欄

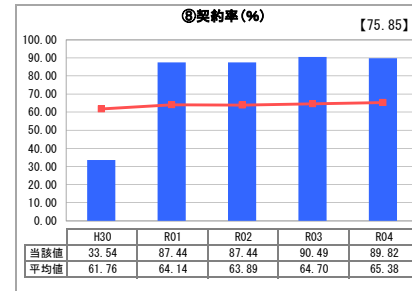
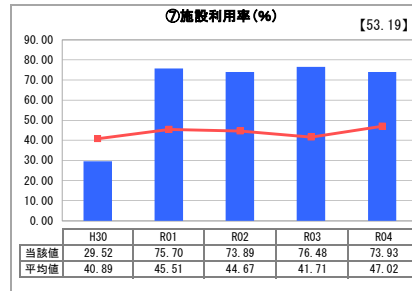
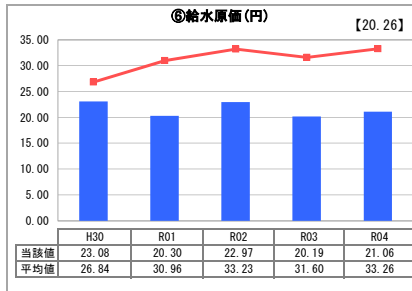
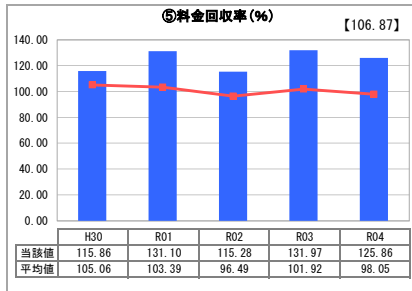
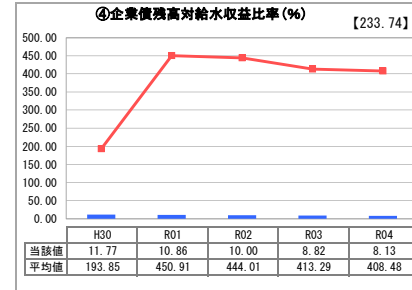
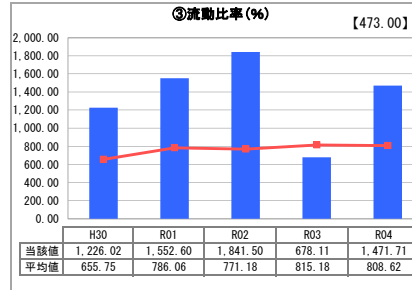
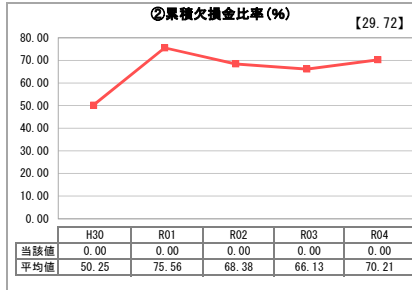
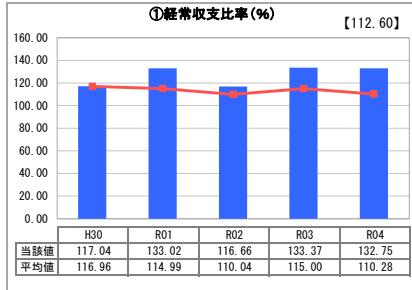
### 1. 経営の健全性・効率性について

収支の状況を示す「経常収支比率」について、令和3年度と比較して数値が下降している主な要因は、修繕費や資産減耗費等の経常経費が増加したことによるものです。

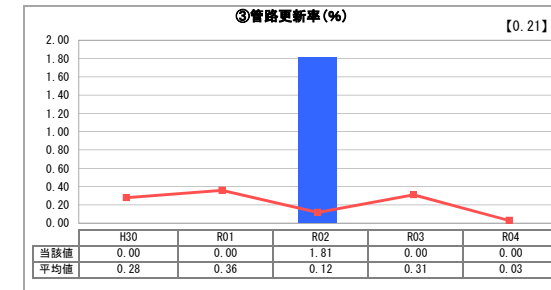
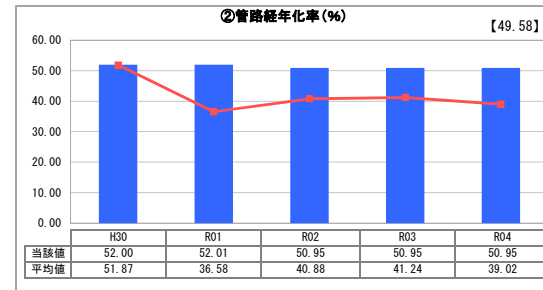
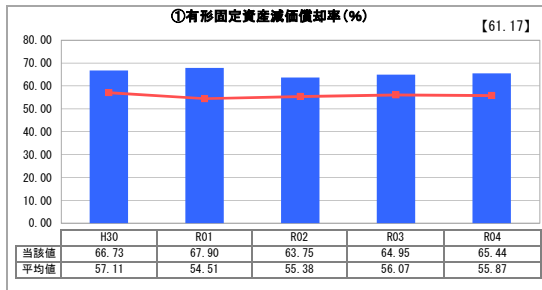
短期的な債務に対する支払能力を表す「流動比率」について、令和3年度に一時的に増加していた未払金が令和4年度には平年並みに戻ったため、改善しました。企業債の規模を表す「企業債残高対給水収益比率」が平均値から大きく乖離しているのは、企業債の新たな借入を行っていないためです。

また、施設の利用状況や適正な規模を表す「施設利用率」、事業の収益力を表す「契約率（配水能力に占める契約水量の割合）」が令和元年度から大きく上昇していますが、これは令和2年3月に岡山工業用水道事業の一日最大配水量を70,000m<sup>3</sup>から25,000m<sup>3</sup>に変更したことによるものです。

### 1. 経営の健全性・効率性



### 2. 老朽化の状況



## 全体総括

産業構造の変化により、配水量及び給水収益の今後の動向は不透明なか、老朽化した施設や管路の計画的な更新と災害等に備えた耐震化が課題となり、今後厳しい事業運営となることが想定されます。「岡山市工業用水道事業計画」の中で、脆弱管路の早期解消について示し、建設投資を抑制しながら耐震化を推進するため、上水道施設及び管路の一部を共用化する検討を進めています。

将来にわたって安定的に事業を継続していくため、水需要に見合った事業マネジメントにより効率的な経営に努めます。